



## 近居の推進事業と窓口の遠隔システム導入を



令和会 ● 藤川 みゆき 議員

### 近居のメリット

介護のサポート 育児のサポート 世代間交流 家事のサポート



**問** 親世帯の近くに子ども世帯が移住して、またはその逆も含めて、住居の準備に係る費用などの一部を負担する「近居、敷地内同居の支援制度」を導入することで人口減少対策、また育児や介護の負担軽減になるのではないのでしょうか。

**答** 活性化が図れるものとし、導入に向けた検討を進めていきます。

〇社の窓口業務遠隔システムの例(神戸市)



地域住民

本庁の相談員

※〇社ホームページより引用

**問** 出張機能が廃止後も庁舎から遠い地域では、庁舎に行く不便さの声を聞き続けています。東庁舎から距離があるのは、菩提寺、菩提寺北、石部南、三雲東、水戸、下田の小学区です。高齢化が進む中、庁舎に行かずに窓口の手続きができれば、また業務の効率化になる遠隔操作を導入してはどうでしょうか。

**答** 非接触で新型コロナウイルス感染症対策にもつながるので行政サービスの有効な手段として検討します。



## コロナ禍だからこそ予防対策事業の実施を!!



湖南市公明党議員団 ● 細川 ゆかり 議員



**問** 乳がん撲滅のための取り組みについて

**問** 検診の受診率と罹患患者数について

**答** コロナ禍の令和2年度は、前年の約75%の受診者数でした。

受診者数	
平成29年	1,400人
平成30年	1,387人
令和元年	1,427人
令和2年	1,067人

罹患患者数	
平成27年	28人
平成28年	33人
平成29年	25人

**問** 自己検診啓発のために乳がんグローブの配布は。

**答** 乳がんグローブは、使用すると指が肌の上を滑りやすくなるためセルフチェックがしやすくなるものですが、使い捨てのため、継続して実施するには適さないと考えます。

**問** 自殺予防対策事業について

**問** メンタルヘルスチェック「こころの体温計」の導入について

**答** 特にコロナ禍で受診を控える傾向にある状況では、自分で簡単に今の心の状態をチェックできるツールがあれば、早期に受診につなげられる可能性も考慮し、検討していきます。

**問** 市営墓地について

**問** 今後のあり方について

**答** 人々の価値観や多様なニーズに合った墓地のあり方について検討する必要があると考えており、区画の整理、区画の縮小化、民間との連携も含めて検討します。

**問** 合葬式墓地設置は。

**答** 今後のあり方の検討を進める中、現状と課題を設置実現に向けて整理していきます。